

第243回福島県災害対策本部員会議（概要）

災害対策本部総括班まとめ

- 1 日時：平成24年1月5日（木）10：10～10：30
- 2 場所：災害対策本部・自治会館303会議室
- 3 内容：

（1）環境放射能測定結果（暫定値）の状況について

事務局：別紙資料により説明

平成24年1月5日午前8時現在、最小値が西会津町野沢小学校、下郷町役場、只見町役場の $0.06 \mu\text{Sv/h}$ 、最大値は飯舘村長泥コミュニティセンターの $7.17 \mu\text{Sv/h}$ となっている。

（2）ワンストップ相談窓口 週報について

オフサイトセンター事務局：別紙資料により説明

先週の実績は277件。

警戒区域見直しに関する報道についてや、ステップ2の完了宣言についての意見、問い合わせがあった。

中間貯蔵施設の双葉郡設置に反対。処分場を福島が受け入れなければならない理由がない。県民投票してはどうかとの意見があった。

（3）「農林水産業に関する相談窓口」の利用状況について

農林水産部長：別紙資料により説明

先週の相談件数は18件。具体的な内容としては、米のモニタリングに関する問い合わせが5件、野菜・果物のモニタリングの結果に関する問い合わせが3件、損害賠償に関する問い合わせが3件であった。米に関しては、出荷制限の地域に関する問い合わせ、緊急調査の結果に関する問い合わせがあった。賠償に関しては、具体的な賠償の中身についての問い合わせがあった。

（4）「原子力損害の賠償等に関する問い合わせ窓口」利用状況について

原子力損害対策担当理事：別紙資料により説明

先週の相談件数は155件で、先々週と比べて減ってきている。

相談内容としては、自主避難等の対象地域外とされた県南、会津の賠償についてどうなっているのかというものがあり、県と市町村が一体となって国等に要望して

いる段階であると回答している。また廃業に関して、廃業後の補償はどの程度かという問い合わせがあり、賠償の終期については、現在、国の審査会でも決定していないものであると回答している。

(5) 経営・金融・労働の相談状況について

商工労働部長：別紙資料により説明

先週の相談件数は15件。

昨年末の閉庁時の29、30日は5件だが、平成22年だと38件あった。そのほとんどが就職関係についての相談ということで、1年前はかなり就職状況が厳しかったということである。それと比べるとこの年末は数的に少なくなっている状況である。

(6) 除染作業業務委託に係る契約手続き例の作成について

生活環境部長：別紙資料により説明

契約手続き例を作成したという情報提供である。

市町村から速やかに除染作業に着手したいという話があった。しかし契約手続き等についての実績や経験がないので、しっかりとした指針を示して欲しいという要望があった。それを踏まえてあくまでも例として作成してお示しをしようとしているものである。

内容については、まず迅速性や的確性が求められる。これと競争性を確保しなければならない。これらの観点から公募型随意契約の例として作成した。この公募型随意契約の特徴であるが、見積合わせをしてその後資格審査をするというもの。この資格審査をするという段階で品質が確保できるのかどうか、しっかり業務をできるのかどうかというところをチェックし、それを通ったものと契約するという手続きになる。

市町村では単独随意契約や緊急随意契約を行っているところもあるので、そういうやり方を拘束するものではなく、1つの例としてこういうやり方もあるということを示したものである。

今後、事例の蓄積などを踏まえて、より適切なやり方、手法の改善を図って参りたいと考えている。標準仕様書を示すということを予定していたが、時間がかかっており示せていない状況なので、速やかに市町村向けに示していきたいと考えている。

松本副知事

自治体によって様々だと思う。比較的規模の大きい団体などについては自らの方針があると思うので、それに則ってやっていただければ良いが、なかなか自分で決

めかねるというところについての1つの雛形としてお示しするというものであるので、あくまでも採用するかどうかについては、それぞれの団体の判断ということになろうかと思う。

それから、今、部長から説明があったように、当然標準仕様書とセットになるのでそれについては、速やかに市町村に示せるようお願いしたい。

また、経験や実績を踏まえてより良いものにしなければならないと思うので、その辺についても先行事例を集積してより精度を高めるようお願いしたい。

(7)「原子力被災市町村支援班」等の新設について

市町村復興支援担当理事：別紙資料により説明

今後3月までの予定で、警戒区域の見直し線引き作業の本格化が進むが、それに対する県の対応ということで、対象市町村への部局横断的な支援を強化するという観点から、災害対策本部内に原子力被災市町村支援班を新設させていただきたいと考えている。この班では緊急時避難準備区域が解除された市町村への支援も継続して実施していきたいと考えている。

内容については、今申し上げたように災害対策本部内に班として原子力被災市町村支援班を新設させていただく。更に、支援対象市町村に現在駐在職員が複数配置されているが、その駐在職員と関係する地方振興局職員、避難元と避難先両方の職員ということになるが、その職員によって県としての各市町村の支援チームを新たに置きたいと考えている。更に、部局横断的な支援を推進するというので、関係部局の技監、政策監等を構成員とする原子力被災市町村支援推進会議を設置したいと考えている。

この班は主な業務として様々な情報の収集や連絡調整、そして区域見直しに伴う諸課題の解決に向けた庁内の関係部局等との調整。更には現在市町村総合支援チーム等で行っている業務をそのまま引き継ぐというような事で考えている。この本部会議で決定をしていただければ本日からこの班を設置したいと考えている。

松本副知事

中身について大きく3つあります。支援推進体制に書いてあるようにこの災害対策本部内に原子力被災市町村支援班を新設する訳ですが、従来ですと活動支援班の中に市町村総合支援チーム及び帰還チームがあった訳ですが、それを1つにして班組織にするというのが内容の1つです。事務局職員、県の職員も含めて十数名の規模になるかと思えます。

それから2つめはそれぞれの市町村に駐在職員と、そこに行っている避難先の振興局、それから避難元の、特に相双振興局の職員をチームに作って現場の支援チー

ムを作るというものである。これについては県職員含めて50名程度と考えている。
1市町村4名程度である。

更に本庁のより高度な調整事項を所管するために市町村復興支援担当理事を座長とする原子力被災市町村支援推進会議を設置するという事で具体的に1月から避難区域の見直しが始まるので、それに合わせてここで了解を頂ければ本日から設置したいという事である。

このような形で推進することの了解を頂いたということで、早速体制を構築するように願います。

(8) 大気降下物モニタリング調査計画について

生活環境部長：別紙資料により説明

具体的には空気中の放射性物質を取り込んで地表に落ちてくる雨や雪をためて、それを分析するというものである。直近はダストをサンプリングして濃度の分析をやっていた。これは直近の調査によるとほとんどNDであった。それをより詳細に広範囲にわたって分析をしていく為に、大気中にある放射性物質を取り込んで地表に落ちてくる雨や雪を1ヶ月間ため込んで、そこから放射性物質が出てくるかどうか分析しようというものである。県内全体で26地点、ただし避難指示区域内にあるものが11地点含まれているので、それ以外の所は15地点ということで県内全域を分析対象としてサンプリングをしていく。

サンプリングに1月以上。分析にも相当な時間がかかるので、結果が出てくるまでには2カ月程度必要かと考えている。引き続き月に1回程度の頻度で継続して分析していきたいと考えている。

松本副知事から

一定の地点に容器を置いておいて、1カ月分のものをためておいてそれを測るという事ですね。この計画に沿って具体的に調査を開始していただきたい。

(9) 福島県における文化施設等の環境放射能モニタリング調査計画(2回目)について

生活環境部長：別紙資料により説明

7月に県内百数十地点について文化施設の屋内屋外の調査をしている。これの2回目ということで、今週から来週にかけて同じく111施設のモニタリングをしたいと考えている。

前回、屋内・屋外でも1 μ Sv/hをこえている地点も数カ所あったので、そうしたところの事後の経過についてももしっかり確認していきたいと考えている。

(10) その他

知事から

様々な議題があったが、それぞれ大事な事である。特に市町村の除染計画策定状況について、市町村と向き合って、市町村の気持ちになって一緒にそれぞれ相談して進めていただきたいと思います。

それから原子力被災市町村支援班について、これから色々な展開がされていくので、その地域の皆さんの気持ちになったつもりで、現場感覚でしっかり支えていただきたいと思います。

今年最初の災害対策会議、皆さんご苦労様です。昨年も昼夜を問わず厳しい状況の中で皆さん方に頑張って頂きました。一方では昨年暮れの紅白歌合戦で我が県からの西田敏行さんとか猪苗代湖ズが福島県の気持ちをしっかりと全国全世界に伝えていただきました。また、正月三が日の実業団駅伝では福島県勢が非常に頑張ってくれて、箱根駅伝では柏原君が非常に頑張ってくれました。更にはサッカーで尚志高校がベスト8になるなど、若手を中心に福島県が元気だという姿を発信してくれました。今年は正に復興元年ということで、それぞれの皆さんとお会いした中で頑張ろうという約束をして参りました。是非皆さんも新たな気持ちで頑張ってくださいと思います。皆さんにとって良い年であることを祈って念頭の挨拶とさせていただきます。よろしく願いいたします。

それから報道の皆さんにもお世話になりまして、今年もまた様々な面でご協力をお願いいたします。

※ 次回は、来週1月12日（木）午前10時から開催する。